

COVID-19 に対する厚生労働省への出向者からの報告

日本臨床工学技士会

代議員 各位

お世話になっております。

新型コロナウイルス感染症の第2波が懸念されている中で、一昨日東京アラートが出されました。この感染症に対し、ここまで当会の対応として、厚生労働省との連携を図り会員皆様にアンケート調査・人材の確保等の事業を行って参りました。

厚生労働省内に臨床工学技士が在職していないため、この事業を円滑に進めるために、当会会員であります田村守啓氏(前連盟事務局長)に、厚生労働省医政局医事課に入省(3か月期間限定)を頂き、当会の COVID-19 チームと連携を図り、副大臣・政務官・厚生労働省医政局医事課に報告してまいりました。

一昨日、田村守啓氏より COVID-19 に対する厚生労働省の対応について中間報告がされましたので、ご報告させていただきます。現場で活躍して頂いている会員皆様とともに、厚生労働省の方針と施策の伝達・資料の作成等でご尽力を頂いております田村守啓氏に感謝申し上げます。

以下の文章にも書かれておりますが、臨床工学技士が副大臣・政務官と直接施策を話し合いがおこなわれていることは、臨床工学技士の重要性が理解された証であると思います。今後とも、会員皆様のご協力をお願い致します。

(以下の抜粋文章が、田村守啓氏からの報告)

本年4月3日より、厚生労働省の依頼により臨時職員として医政局へ入省致しました、(前)日本臨床工学技士連盟事務局長の田村守啓です。

皆様とは学会等でお目にかかって以来、ご挨拶もままならぬ状態で本職に就きましたこと、ご報告ができず申し訳ございませんでした。

入職当日より人工呼吸器の確保を主な業務として奔走して参りました。大卒での人工呼吸器確保の目処が立ち、パルスオキシメータ、体温計、人工呼吸器の消耗品の調査を始め、欠品の消耗品に対する複数回使用の件や代替品使用に関する事、日本国内への輸入の加速化に至るまで、様々な業務を経験させていただき、解決の方向へと向かうことができました。

また、人材確保チームにも加入させていただき、現場における臨床工学技士の必要性を直に訴えると共に、全国の衛生主管部局へ臨床工学技士会との連絡を円滑にすべく、連絡を取らせていただくなど、様々な業務に取り組んでおります。現在も適宜、橋本岳厚生労働副大臣と自見政務官との3者面談で行い、臨床工学技士に関連する問題提議をしております。

このことは、私一人では今の業務の遂行は叶っておりません。本間理事長をはじめとする技士会役員・会員の皆様からはより現場に近い声を、日本臨床工学技士連盟の肥田理事長をはじめとする役員の皆様からはより政治に近い声を、それぞれがそれぞれの方向に合った業務サポートをしていただけるからこそと理解しております。臨床工学技士の皆様には是非とも日々の業務に自信を持っていただき、よりよい医療の提供を続けていただきますよう、切に願うばかりです。末筆ながら、現場の皆様の声が少しでも国に届き、改善の方向に向かうよう、これからも尽力して参ります。